

県や市町が中心となって森林の基礎情報の収集・整理を推進し、森林地域の境界明確化を加速化させるために、平成27年11月に設立された森林境界明確化推進協議会の平成28年度事業の一環として、平成29年3月3日に市町職員向けの研修会が開催されました。

### ☆研修会の目的

行政と森林組合等が一体となって森林境界明確化に取り組んでいる先進事例から境界明確化を推進するヒントを得るため、徳島県那賀町の取組について研修しました。



### ☆那賀町とは

那賀町の森林の所有形態の特徴は、大規模所有者は町外に多く、小規模所有者は町内に多いことが挙げられます。木頭スギのブランドがあり、昭和30年代は広葉樹を原料としたチップ工場が町内に多くあり、2万人以上の人口があったようです。林業関連産業が衰退している中、平成23年7月に那賀町林業活性化推進協議会を設立し「那賀町林業マスタープラン」を策定、平成24年に素材生産量4倍、林業就業者2倍の目標を実現するための新しい組織「那賀町森林管理受託センター準備室」を立ち上げています。

### ☆森林管理受託センターの役割

準備室は町、森林組合、林業公社の職員で構成され、町内の町有林を核とし、隣接の私有林を集約化し森林経営計画の策定等を実施しています。また、その他の業務として森林境界明確化事業を事前調査業務、現地調査・測量業務、成果作成業務に分けて、役割分担して事業を実施しています。各業務を1年間で実施しており、成果作成業務で確定した面積をもって、現地調査と測量業務の面積を確定しています。森林境界明確化事業の財源として、平成27年度までは加速化事業を活用していましたが、平成28年度は県の森林情報整備事業を活用し、平成29年度は町の起債事業として実施する予定だそうです。

### ☆その他

行き帰りの車中では、森林法改正等や林地台帳原案作成の情報提供、森林境界明確化の推進についての意見交換などを行い、充実した1日となりました。那賀町と本県の市町では実情が異なる部分もありますが、研修で得た知識を活用し、それぞれの市町で森林境界明確化が促進される契機になればと思います。最後になりましたが、研修にご協力いただいた那賀町の担当者の皆様、ありがとうございました。  
(森林境界明確化推進協議会事務局)